

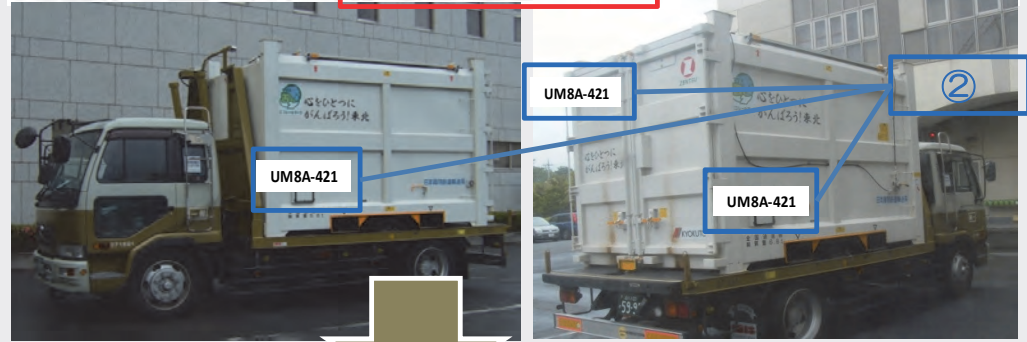
# 1. 災害廃棄物受入れに伴う搬入手順

## ○ 手順1

西多摩衛生組合にコンテナが到着し、すぐに配達伝票のコンテナ番号（赤線①）と車両のコンテナ番号（青線②）が同じ番号であることを確認する。

伝票例

配達先名	東京都西多摩衛生組合様	お客様名	東京都西多摩衛生組合様	配達指定	2012年06月27日
住所	羽村市 羽4235	電話			
品名	災害廃棄物	荷姿		数量	バラ 荷重 3.8トン
国連番号					
集荷先名	女川町災害廃棄物処理 様	お客様名	宮城県女川町 様	集荷指定	2012年06月25日
住所	牡鹿郡女川町	電話			
発日	2012年06月26日	発駅	仙台(夕)	発列車	8070
着日	2012年06月26日	着駅	東京(夕)	着列車	8070
発利用者	日本通運株式会社	電話	022-291-0239		
乗務員名		コンテナ	UM8A-421 ①	封印環番号	CC-92307/8



## ○ 手順3

配達伝票の封印環番号（赤線①）とコンテナ車両の封印環番号（青線②）が同じ番号であることを確認する。  
（封印環は、天蓋（てんがい）と観音扉の2カ所にあります）

伝票例

配達先名	東京都西多摩衛生組合様	お客様名	東京都西多摩衛生組合様	配達指定	2012年06月27日
住所	羽村市 羽4235	電話			
品名	災害廃棄物	荷姿		数量	バラ 荷重 3.8トン
国連番号					
集荷先名	女川町災害廃棄物処理 様	お客様名	宮城県女川町 様	集荷指定	2012年06月25日
住所	牡鹿郡女川町	電話			
発日	2012年06月26日	発駅	仙台(夕)	発列車	8070
着日	2012年06月26日	着駅	東京(夕)	着列車	8070
発利用者	日本通運株式会社	電話	022-291-0239		
乗務員名		コンテナ	UM8A-421	封印環番号	CC-92307/8 ①



## ○ 手順2

搬入されたコンテナ車両における宮城県女川町での放射線量測定結果の確認方法

■ 図1での確認

- ① コンテナごとの放射線量率測定結果一覧表（図1）を確認します。（東京都から毎日送付されます）
- ② 図1の測定結果一覧表から該当するコンテナ番号を検索すると宮城県女川町で測定したコンテナの放射線量測定結果一覧表が表示されます。
- ③ 放射線量の測定結果を二重チェックするため、図1に記載されている**ナンバー（No.16）**と**測定日（6月25日）**を確認します。

■ 図2での確認

- ④ まず、**測定日（6月25日）**から同じ日付（**6月25日**）の宮城県女川町の放射線量測定結果を東京都ホームページから検索します。

■ 図3での確認

- ⑤ 宮城県女川町の放射線量測定結果一覧表から図1に記載されていた**ナンバー（No.16）**と同じ積込みコンテナ番号（**No.16）**を検索し、測定結果の二重チェックをしています。

図2 東京都環境局

放射線測定結果(宮城県女川町) 平成24年3月～(宮城県女川町)

放射線測定結果(宮城県女川町) H24.3.29

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.10

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.11

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.12

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.13

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.14

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.15

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.16

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.17

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.18

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.19

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.20

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.21

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.22

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.23

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.24

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.25

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.26

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.27

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.28

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.29

放射線測定結果(岩手県宮古市) H24.4.30

図1 災害廃棄物受入事業(宮城県女川町) コンテナごとの放射線量率測定結果

No.	コンテナ番号	測定日	遮蔽線量率 A (μSv/時)	コンテナ積込後の空間線量率 (μSv/時)
16	UM8A-421	6月25日	0.000	0.08 0.08

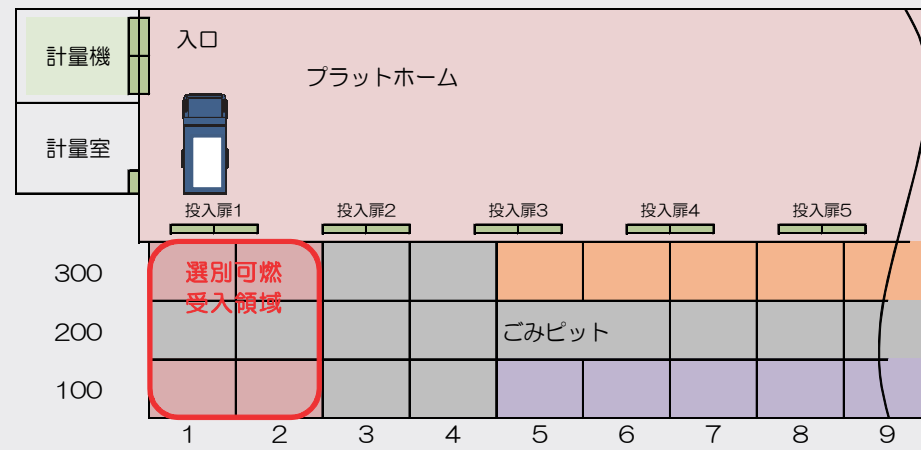
図3 (2)遮蔽線量率の測定結果及びコンテナ積込後の空間線量率の測定結果

コンテナ積込	遮蔽線量率(μSv/時) A	コンテナ積込後の空間線量率(μSv/時)
コンテナ1積込	0.000	0.08
コンテナ2積込	0.001	0.08
コンテナ3積込	0.000	0.08
コンテナ4積込	0.001	0.08
コンテナ5積込	0.001	0.08
コンテナ6積込	0.000	0.08
コンテナ7積込	0.001	0.08
コンテナ8積込	0.000	0.08
コンテナ9積込	0.000	0.08
コンテナ10積込	0.001	0.08
コンテナ11積込	0.000	0.08
コンテナ12積込	0.001	0.08
コンテナ13積込	0.000	0.08
コンテナ14積込	0.000	0.08
コンテナ15積込	0.001	0.08
コンテナ16積込	0.000	0.08
コンテナ17積込	0.001	0.08
コンテナ18積込	0.000	0.08
コンテナ19積込	0.000	0.08
コンテナ20積込	0.000	0.08

## ○ 手順5

災害廃棄物搬入

- ① 天蓋と観音扉のロックを解除します。（図1）
- ② 車両落下防止チェーンを付けます。（図2）
- ③ 投入扉1番からごみピットへ搬入します。
- ④ 搬入が終わったら、車両落下防止チェーンを外し、清掃後、再び計量します。
- ⑤ ごみクレーンで木くずの目視確認をします。（図3）



## ○ 手順4

コンテナ車両を下記①～③の手順で二重計量し、災害廃棄物の搬入量を確認します。

- ① 総重量（緑線①）を計量します。
- ② 搬入後、空車重量（紫線②）を計量します。
- ③ 正味重量（橙線③）から搬入量を確認します。（※ 総重量－空車重量）

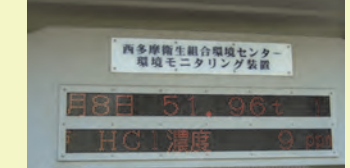


地区	05 災害廃棄物
区分	06 広域支援1
業者コード	0228
業者名	災害廃棄物
搬入時刻	
① 総重量	08:40 11770 kg
② 空車重量	08:51 7900 kg
③ 正味重量	3870 kg
単価	— 円/kg
料金	— 円
西多摩衛生組合	

## ○ 手順6

受入量の情報提供について

- ① 公害監視盤に受入量・累計受入量等を掲示していきます。（受入日は毎日）
- ② 西多摩衛生組合ホームページに受入量等を掲示していきます。（1週/回）
- ③ 羽村・瑞穂両協議会へ定期的な受入量等を報告していきます。



## ○ 手順7

攪拌作業について

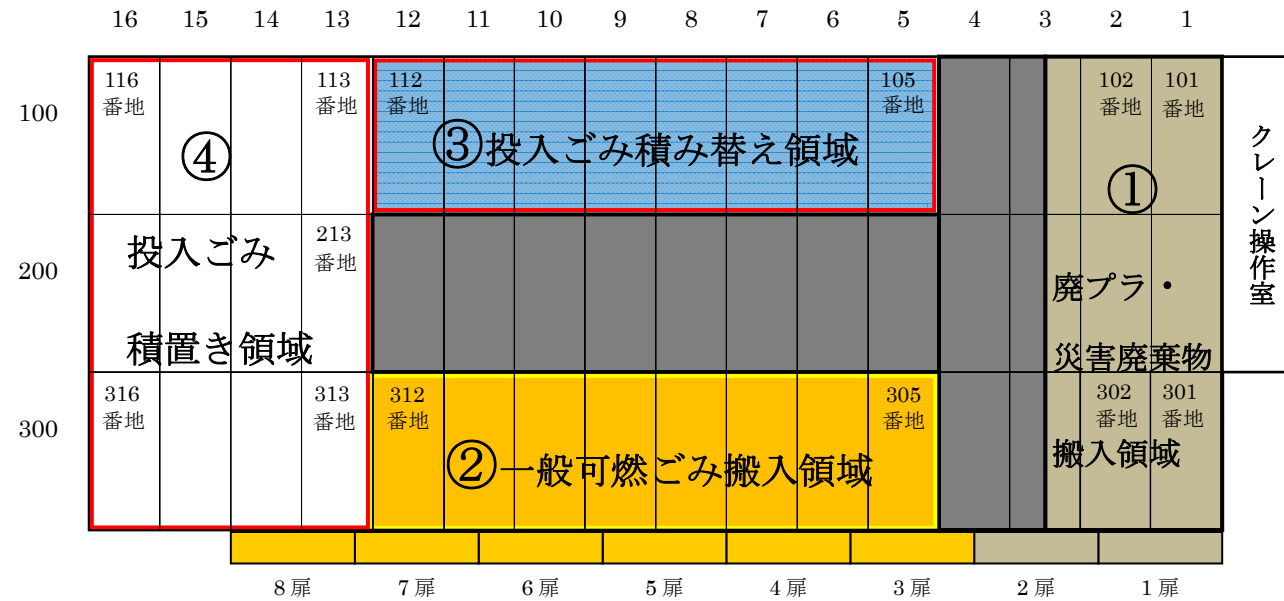
- ① 災害廃棄物は、選別可燃ごみと同じ扱いとしています。
- ② 青梅市・福生市・羽村市及び瑞穂町の収集されたごみ（事業系ごみ含む）で十分な攪拌がされたごみと混合して焼却していきます。



## 2. 災害廃棄物の焼却対応について

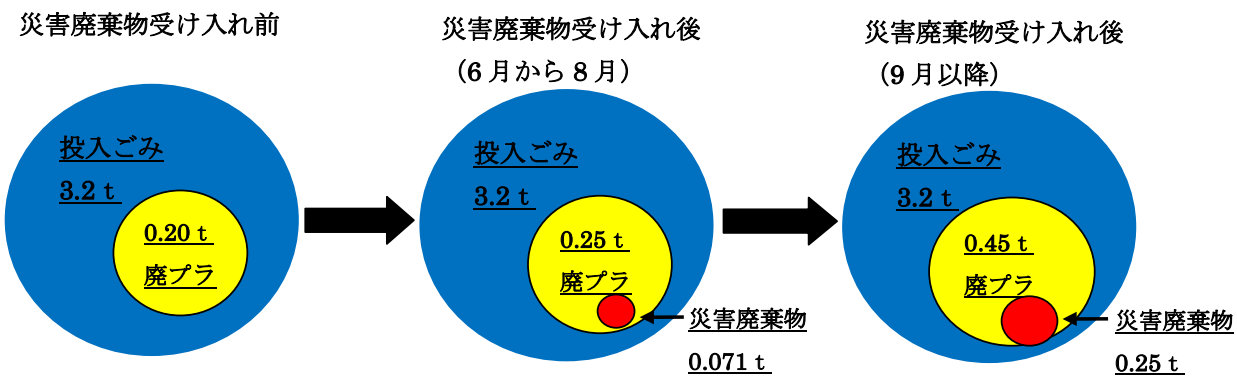
### (1) ピット内のごみ管理状況

- ごみ質ごとに搬入領域をつくりピット内の管理を行っています。
- ピット内全体を 48 ブロックに分けピット管理を行います。



### (2) 災害廃棄物等の混入量と混入率

- 当組合では一般可燃ごみに廃プラを定量混ぜて攪拌し、ごみの均一化を図っています。
  - 6 月より災害廃棄物の受け入れが始まったことにより、一般可燃ごみに廃プラと災害廃棄物を混ぜ焼却を行うこととなりました。
- ① クレーンでの投入は 1 回で 3.2 t を摘み、1 日 50 回のごみを投入することで 1 日 160 t のごみ処理を行っています。(3.2 t × 50 回 = 160 t) (約 30 分に 1 回のごみ投入)
  - ② 6 月から 8 月までの 3 カ月は燃焼状態等の状況把握のため、一般可燃ごみ 2.95 t に対し、0.25 t (混入率 7.8%) の廃プラ・災害廃棄物を混入させ焼却を行います。  
なお、廃プラ・災害廃棄物 0.25 t の内訳としては、廃プラ 0.179 t ・災害廃棄物 0.071 t となっています。
  - ③ 9 月より災害廃棄物の搬入が日量 20 t となる為、最大 15% の混入率で攪拌を行い焼却します。なお、クレーン投入 1 回分の災害廃棄物の焼却量は 0.25 t となります。



### (3) 1 日に焼却される災害廃棄物の処理量

#### (9 月以降の最大量 15% の概算)

- ① 焼却炉にクレーン 1 回で投入するごみの重量 1 回 : 約 3.2 t . . . . A
  - ② クレーン 1 回で投入する災害廃棄物の混入量 約 0.25 t . . . . B
  - ③ 1 日の焼却量 160 t . . . . C
  - ④ 1 日のクレーン投入回数 C ÷ A 160 t ÷ 3.2 t = 50 回 . . . . D
  - ⑤ 1 日に焼却される災害廃棄物の処理量 B × D 0.25 t × 50 回 = 12.5 t
- 1 日の処理量 12.5 t**

### (4) 災害廃棄物焼却中の確認事項

- 燃焼状態 (温度・圧力・流量など) および排ガス中における有害物質の発生状況を確認いたします。
- 焼却中の確認事項一覧 (1 時間当たりの平均値)

監視項目	設定値・管理値	単位	災害廃棄物焼却前平均 (6/5~11)	災害廃棄物焼却後平均 (6/12~7/15)
一次燃焼室温度	800~1000	°C	892	890
二次燃焼室温度	800~1000	°C	958	955
炉出口温度	680~750	°C	728	728
一次空気流量	11.5~13.0	km3N/h	11.5	11.6
二次空気流量	12.0~17.0	km3N/h	14.1	13.9
炉床温度	605~610	°C	607	606
集じん器(差圧)	0~150	mmH2O	100	101
排ガス流量	45.0~55.0	km3N/h	46.8	45.0
一酸化炭素濃度	100>	ppm	26	20.5
塩化水素濃度	50>	ppm	7	8
窒素酸化物濃度	50>	ppm	26	25
硫黄酸化物	30>	ppm	0	0
ばいじん	0.02>	g/m3N	0	0
消石灰(吹込量)	40~60	kg/h	44.5	41.2
アンモニア水(吹込量)	6~8	L/h	6.07	6.11

- 燃焼開始 1 カ月経過の状況

1. 災害廃棄物焼却前と焼却後の監視項目を比較すると、いずれの数値も管理値内であり災害廃棄物焼却前後で数値の変化が見られないことから燃焼および排ガス等に影響が無いと判断しております。
2. 放射能測定結果については排ガス中の放射性セシウムが不検出となっていることから影響が無いことを確認しています。
3. 今後もデータ収集・分析を行い、安全を確認し安定した焼却炉の運転管理を行っていきます。詳細なデータはホームページ内の「[環境データ資料](#)」をご覧ください。

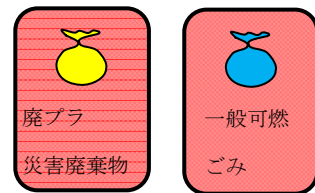
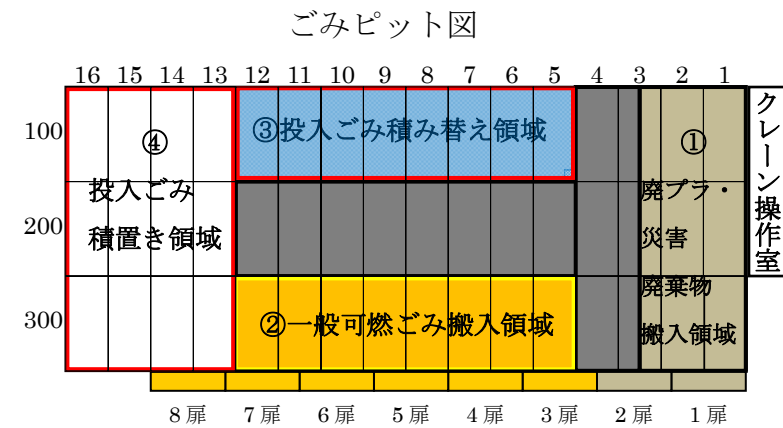
## (5) 攪拌作業手順について

### 攪拌作業

○ 一般可燃ごみに定量の廃プラ・災害廃棄物を混入させ、焼却ごみの均一化を図り、いつでも同じごみ質にすることで安定したごみ焼却を行います。

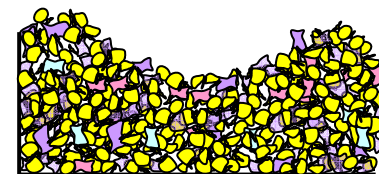
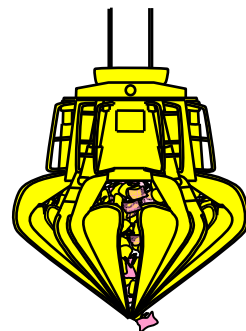
### — 具体例 —

クレーン1杯の掴むごみの重量を3.2tとし、0.25tの廃プラ・災害廃棄物を混入させます。



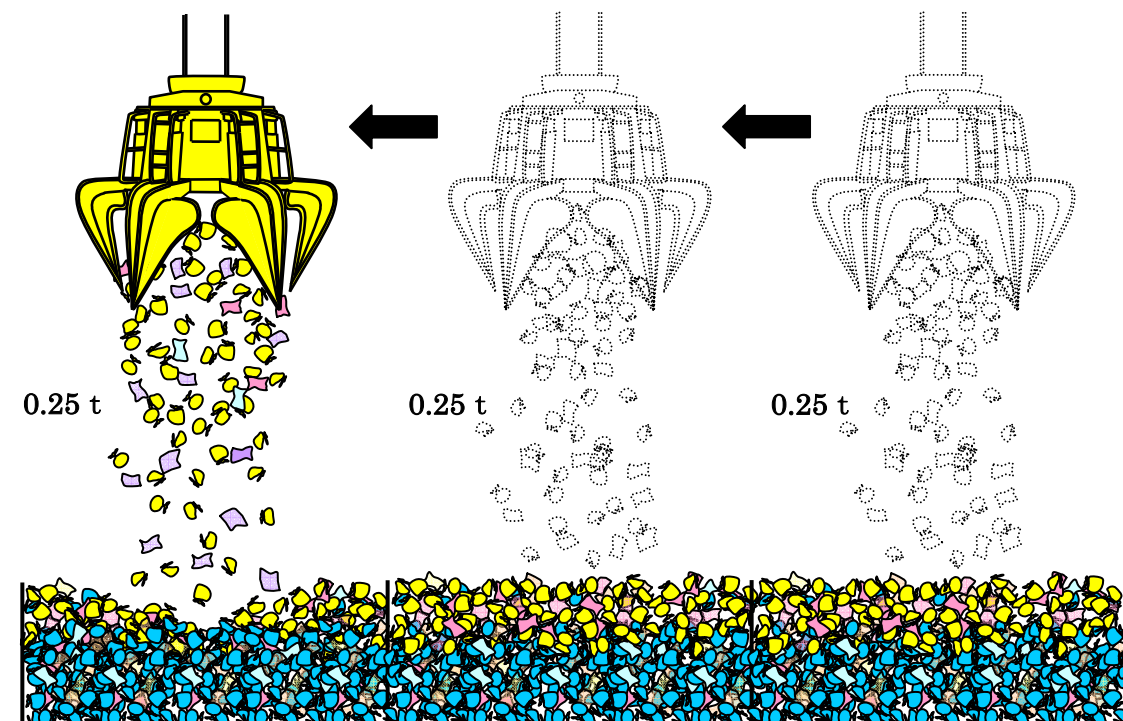
### 手順.1

ごみピット図の①廃プラ・災害廃棄物搬入領域より廃プラ・災害廃棄物を3ブロック分(0.25t×3=0.75t)掴む。



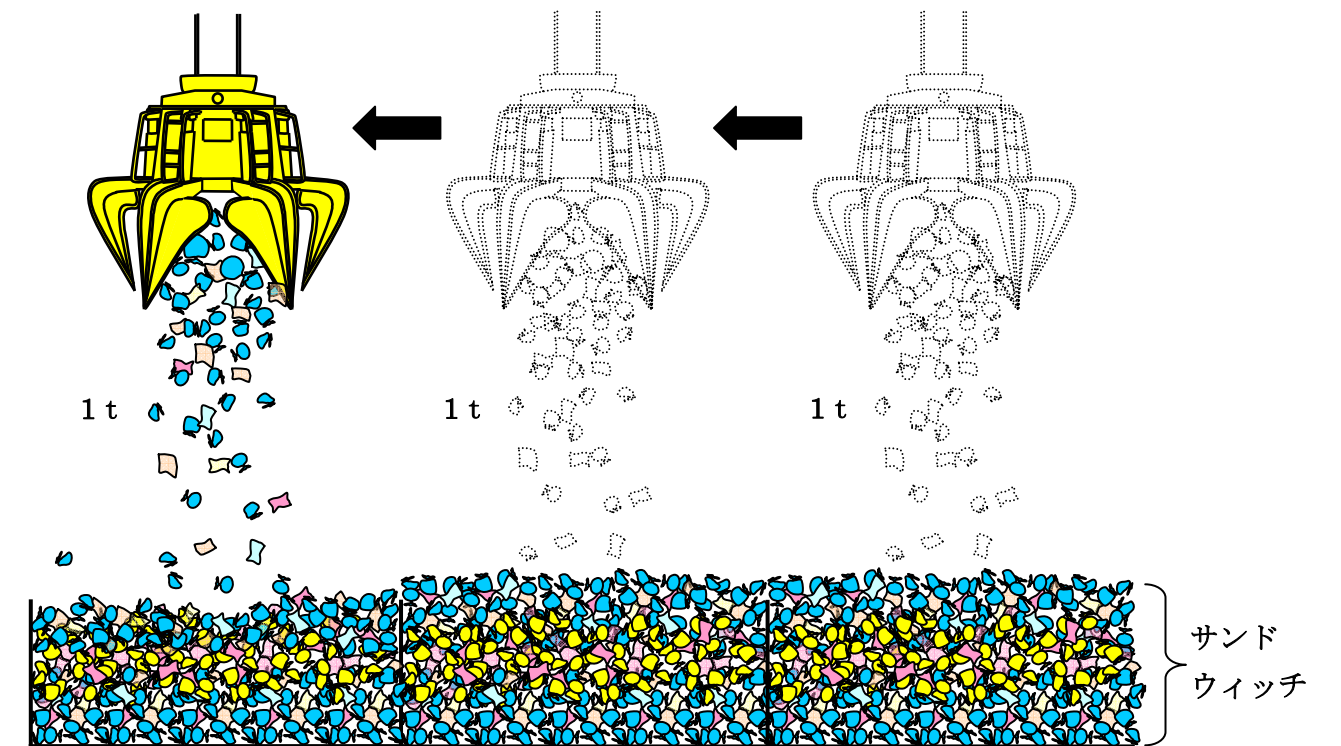
### 手順.2

掴んだ廃プラ・災害廃棄物0.75tを8ブロックに分かれているピット図の②一般可燃ごみ搬入領域の上へ1ブロック0.25tずつ乗せる。



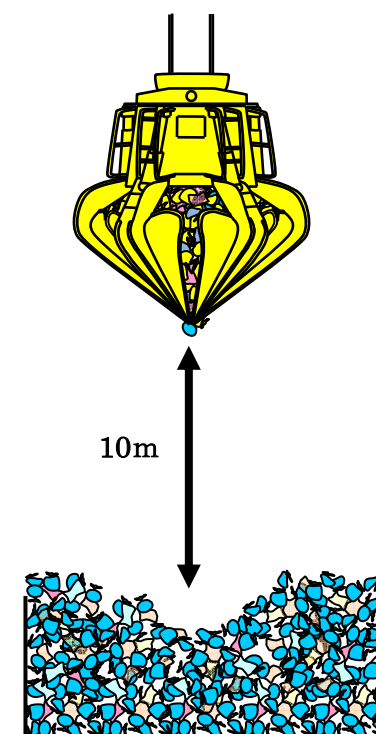
### 手順.3

乗せた廃プラ・災害廃棄物の上へ一般可燃ごみを更に各ブロック1tずつ乗せサンドウィッチ状態とします。



### 手順.4

サンドウィッチになったごみを3.2t程度掴み10m程度持ち上げます。



### 手順.5

掴んだごみを揉み解す様に落とします。この工程を3回行い、ピット図の③投入ごみ積み替え領域へ移動させ、安定的にごみを燃焼させる為の攪拌作業が完了します。

